

## 豚熱の発生から約3年・・・

国内で26年ぶりとなる豚熱の発生から約3年が経ちましたが、依然として終息の目途はたっておらず、その発生戸数も増加している状況です。

最近の豚熱発生状況			
発生日月	事例番号	発生場所	飼養頭数
令和3年8月7日	71	群馬県桐生市	5,000
令和3年8月6日	70	山梨県道志村	1,700
令和3年7月8日	69	神奈川県横浜市、相模原市	4,000
令和3年5月11日	68	山梨県中央市	2,500

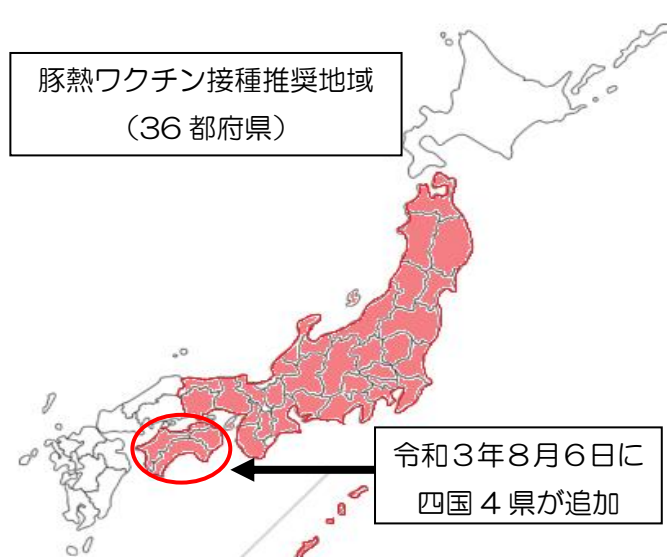
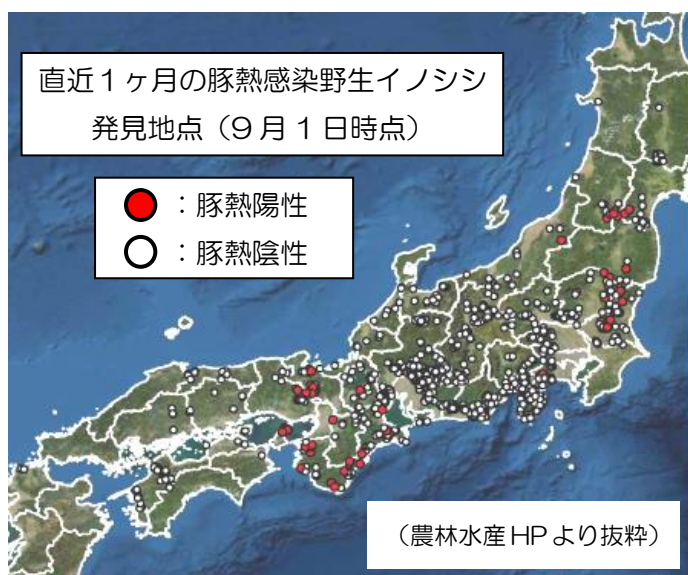
### <野生イノシシにおける感染の拡大について>

7月29日に淡路島で野生イノシシの感染が確認されましたが、兵庫県内では、それまで淡路島から少し離れた地域での発生しか確認されておらず、感染経路が明確になっていません。イノシシなどの野生動物が海を渡った可能性のほかに、人や車が運んでしまった可能性も考えられます。防疫対策として、防護柵の設置や、靴・車両の消毒の徹底などが重要となります。

### <ワクチン接種推奨地域について>

北海道、九州（沖縄県を除く）、山口県、島根県、広島県を除く本州のほぼ全域がワクチン接種推奨地域（※）となっています。淡路島で野生イノシシに発生が確認されたことを受け、四国4県が新たに推奨地域に追加されています。

※都道府県内の飼育豚、または野生イノシシで感染が確認された場合や、隣県で野生イノシシの感染が認められた場合、ワクチン接種推奨地域となります。



## 農薬散布の際は、蜜蜂にご注意ください！

養蜂における農薬による被害は、県内では令和2年8月30日に155箱(一箱当たり約1,000匹)の被害が報告されています。農薬被害は主に水稻のカメムシ防除の時期(7月~9月)に多く、カメムシ防除の農薬が蜜蜂に直接暴露することが原因の可能性が高いとされています。

### <農薬による被害時の特徴>



農薬による被害は規模の大きいものが多く、県内では直近3年で7件の事例が報告されていますが、そのうち3件が100箱以上の被害となり、最大で一箱当たり6,000匹の被害となっています。

肉眼的な所見として、左写真のように舌を出しているような状態になることがあります。

今年度の球磨地区における被害発生は報告されていませんが、注意が必要です。

### <被害防止の工夫を！>

#### ①農薬使用者と養蜂家間の情報共有

- 農薬使用者等は、農薬散布の際は事前に周辺の養蜂家へその旨を連絡し、養蜂家は巣箱の設置場所などの情報を農薬使用者と共有する。

#### ②巣箱の設置場所

- 周囲を水田に囲まれた場所に巣箱を設置するのを避ける。
- 農薬使用の情報がいった際、巣箱を移動させる。



#### ③農薬の使用

- 蜜蜂が盛んに行動する時間帯(10時~15時頃)を避け、夕方に実施する。
- 蜜蜂に暴露しにくい農薬(粒度が大きいものなど)を使用する。

蜜蜂が大量死するなどの事故が発生した場合、**球磨地域振興局農業普及・振興課**、または**城南家畜保健衛生所**に連絡してください！

### 近隣諸国における悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地(国)	畜種	発生日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	ロシア	野鳥	令和3年7月14日
	H5N5	台湾	家禽	令和3年8月16日
	H5N6	ベトナム	家禽	令和3年8月6日
	H5N8	ベトナム	家禽	令和3年8月9日
アフリカ豚熱 (ASF)		韓国	豚	令和3年8月8、16、26日
		韓国	野生イノシシ	令和3年8月27日
		ロシア	豚	令和3年8月26日

令和3年(2021年)8月31日現在